

流域のあらまし

豊川はその源を愛知県北設楽郡設楽町の段戸山（標高1,152m）に発し、宇連川と合流し、豊橋平野に出て、豊川市で豊川放水路を分派し、豊橋市内を流れ、三河湾に注ぐ、幹川流路延長77km、流域面積724km²の一級河川です。

流域は、東三河地域の中心である豊橋市をはじめとする3市1町からなり、約61万人（平成22年）の人々が生活しており、豊川用水の整備等により日本一の農業産出額を誇る高付加価値型農業地帯や、重要港湾・三河港などを抱えて、東三河地域における産業、経済の基盤をなしています。

流域内の年間降水量（昭和30年～平成19年）は、上流域で約2,400mm、下流域で約1,800mmと全国的に見ると多く、水質については、本川の環境基準点でのBOD75%値は1mg/l以下（平成15年、一級河川として水質日本一）と全国的にも極めて良好な水質を維持しています。



- 凡例
- 主な既設ダム
 - 主な頭首工
 - 建設中ダム
 - 豊川流域
 - 豊川流域圏
 - 大臣管理区間

流域圏とは「流域及び関連する水利用地域や氾濫原を含む一体的な地域」と定義しています。



設楽ダム建設予定地



ネコギギの確認個体数の経年変化（A淵）

H19放流

単位：個体

実施日	H19.10.31	H19.11.5	H20.5.27	H20.6.1	H20.6.5	H20.8.21	H20.9.8	H20.9.11	H20.9.14
放流後日数	-	5日後	209日後	214日後	218日後	295日後	313日後	316日後	319日後
放流個体数	100	-	-	-	-	-	-	-	-
採捕	-		0	0	0	0	1	1	0
目視	-	11	0	0	0	1	1	0	0
合計	100	11	0	0	0	1	2	1	0

H20放流

単位：個体

実施日	H20.11.4	H20.11.9	H20.12.12	H20.12.17	H21.6.3	H21.6.6	H21.6.9	H21.9.1	H21.9.4	H21.9.7
放流後日数	-	5日後	-	5日後	173日後	176日後	179日後	263日後	266日後	269日後
放流個体数	20	-	80	-	-	-	-	-	-	-
採捕	-	1	-		0	1	2	1	2	2
目視	-	0	-	4	0	0	0	0	0	1
合計	20	1	80	4	0	1	2	1	2	3

H21放流

単位：個体

実施日	H21.12.16	H21.12.21	H22.6.9	H22.6.12	H22.6.24	H22.9.13	H22.9.17	H22.9.20	H23.6.8	H23.6.29	H23.7.2
放流後日数	-	5日後	175日後	178日後	190日後	271日後	275日後	278日後	539日後	560日後	563日後
放流個体数	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
採捕	-		1	1	0	0	0	0	0	0	0
目視	-	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	40	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
実施日	H23.10.3	H23.10.6	H23.10.9	H24.6.7	H24.6.10	H24.9.3	H24.9.9				
放流後日数	656日後	659日後	662日後	904日後	907日後	992日後	998日後				
放流個体数	-	-	-	-	-	-	-				
採捕	0	0	0	0	0	0	0				
目視	0	0	0	0	0	0	0				
合計	0	0	0	0	0	0	0				

※ は、目視のみの調査

※ 確認調査は夜間行っていることに加え、もともとネコギギは横穴に隠れている魚であるが、河床の石等を取り除いて調査しているわけではないため、全数を確認することは容易ではなく、調査結果は、あくまでも調査時に採捕及び目視で確認できた個数を記録したもの。

※ 放流個体には、生物への影響が少ないイラストマー蛍光タグを注入しているため、放流個体であるかどうかの判別ができるようになっている。

ネコギギの確認個体数の経年変化（B淵）

H25放流

単位：個体

実施日	H25. 3. 9	H25. 3. 15	H25. 3. 22	H25. 3. 26	H25. 4. 11	H25. 6. 3	H25. 6. 6	H25. 8. 1	H25. 9. 2	H25. 9. 11	H25. 9. 24
放流後日数	-	6日後	13日後	17日後	33日後	86日後	89日後	145日後	177日後	186日後	199日後
放流個体数	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
採捕	-					8	7		0	0	
目視	-	20	8	9	11	1	3	9	1	3	4
合計	37	20	8	9	11	9	10	9	1	3	4
実施日	H25. 10. 3	H26. 6. 2	H26. 6. 5	H26. 9. 12	H26. 9. 15						
放流後日数	208日後	450日後	453日後	552日後	555日後						
放流個体数	-	-	-	-	-						
採捕	0	1	0	0	0						
目視	1	2	0	2	4						
合計	1	3	0	2	4						

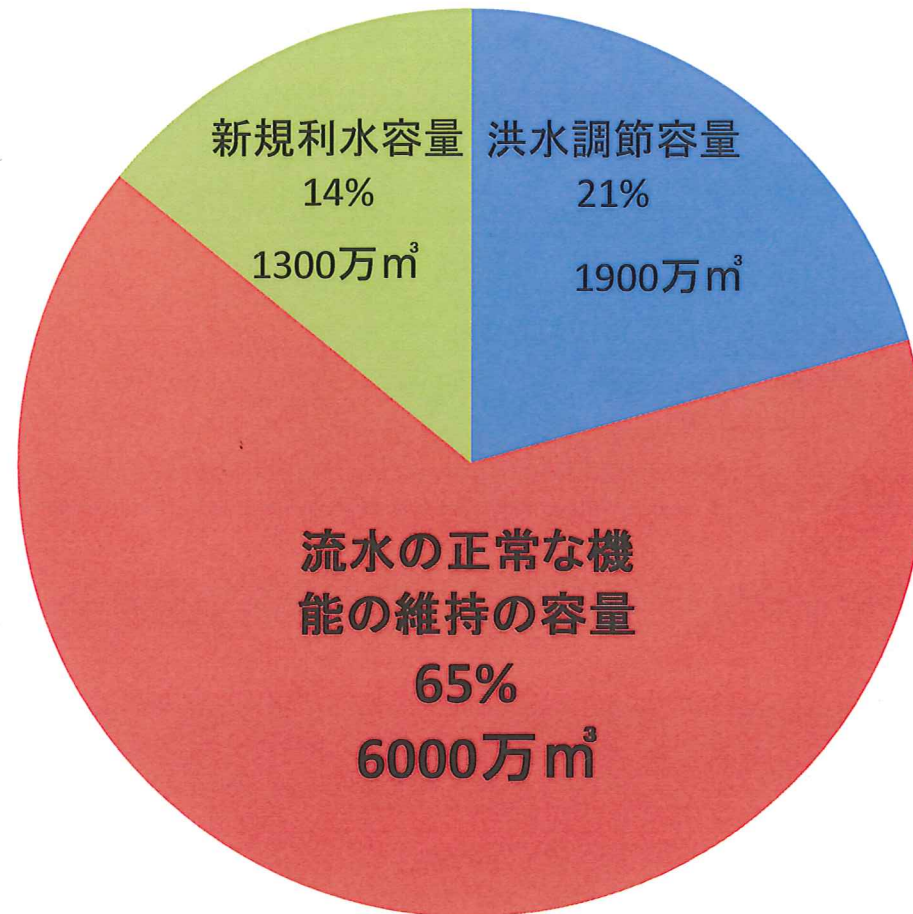
※ は、目視のみの調査

※ 確認調査は夜間行っていることに加え、もともとネコギギは横穴に隠れている魚であるが、河床の石等を取り除いて調査しているわけではないため、全数を確認することは容易ではなく、調査結果は、あくまでも調査時に採捕及び目視で確認できた個数を記録したもの。

※ 放流個体には、生物への影響が少ない イラストマー蛍光タグを注入しているため、放流個体であるかどうかの判別ができるようになっている。

設楽ダムの有効貯水容量(全体9200万 m^3)

④



国土交通省の資料より、本村伸子事務所作成